

# キイチゴ「ベビーハンズ」の挿し芽

～キイチゴ「ベビーハンズ」の挿し芽はインドール酪酸液剤を使用すると発根が優れる～

## 背景・目的

- 宮崎県において、2013年度よりキイチゴ「ベビーハンズ」の栽培が始まりました。
- キイチゴ「ベビーハンズ」は、挿し芽により苗を生産しますが、発根が安定せず苗の生産が不安定です。
- 苗の安定生産を目的に挿し芽条件について検討しました。

## 成果の内容

- 発根本数は、「インドール酪酸200倍希釈24時間浸漬」及び「インドール酪酸400倍希釈24時間浸漬」で多くなりました(表1)。
- 根の乾燥重は、「インドール酪酸200倍希釈24時間浸漬」及び「インドール酪酸400倍希釈24時間浸漬」で重くなりました(表1)。

表1 キイチゴ「ベビーハンズ」の発根促進剤の違いによる挿し芽の節数及び根の状態(n=10)

試験区 <sup>1)</sup>	発根苗率 (%)	節数 <sup>2)</sup> (節)	根の本数 <sup>3)</sup> (本)	根の乾燥重 <sup>4)</sup> (g)
インドール酪酸液剤 <sup>5)</sup> 400倍24時間浸漬	100	7.9 ± 0.6 <sup>6)</sup> a	44.7 ± 6.0 a	0.41 ± 0.0 a
インドール酪酸液剤 200倍24時間浸漬	100	7.8 ± 0.7 a	44.5 ± 4.4 a	0.41 ± 0.0 a
インドール酪酸液剤 2倍10秒浸漬	100	7.2 ± 0.4 a	29.2 ± 2.4 ab	0.32 ± 0.0 ab
1-ナフチル アセトアミド粉末	100	6.2 ± 0.2 a	28.5 ± 1.9 ab	0.28 ± 0.0 ab
ヒドロキシ イソキサゾール液剤 1,000倍かん注	100	6.2 ± 0.4 a	16.8 ± 0.9 b	0.24 ± 0.0 b
水道水かん水	100	6.1 ± 0.4 a	18.5 ± 1.9 b	0.26 ± 0.0 b

<sup>1)</sup> 挿し芽は2018年9月11日、発根調査は2018年10月17日(挿し木後36日)  
挿し穂は、無加温ハウス内のポットで育苗した枝から採取。長さ10cm、展開葉3枚、挿し木部位はななめにカット。  
挿し芽規格は29cmポット。用土は「ポットくん1号(N:P:K=0.2:2.5:0.2g/L)」を使用。  
挿し木後は無加温ハウスの75%の遮光下で管理し、14日後に遮光を外す。  
かん水管理は毎日じょうろかん水。

<sup>2)</sup> 葉がある節の数  
<sup>3)</sup> 挿した部位から直接出ている根の数  
<sup>4)</sup> 発根している部位を含め、60℃下で約24時間乾燥させた後の重さ

<sup>5)</sup> インドール酪酸液剤を400倍希釈し24時間基部を浸漬  
インドール酪酸液剤を200倍希釈し24時間基部を浸漬  
インドール酪酸液剤を2倍希釈し10秒基部を浸漬  
1-ナフチルアセトアミドを基部に粉末  
ヒドロキシイソキサゾール液剤を1,000倍希釈し挿し芽後土壌に灌注  
挿し芽後水道水かん水

<sup>6)</sup> 平均値±標準偏差  
<sup>7)</sup> Tukey多重検定法により異なる英文字間に5%水準で有意差あり



図1 インドール酪酸液剤400倍24時間浸漬における根の状態



図2 インドール酪酸液剤400倍24時間浸漬における苗の状態

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 苗の発根が良好となり、初期生育が良好になると期待されます。
- 苗の安定生産が期待できます。
- 普及対象地域・面積 ジェイエイ・アグリシード(株)、県内のベビーハンズ生産地域(予定)

## 留意点

- 亜熱帯作物支場(日南市)での試験結果です。
- 健全で元気の良い穂を使用します。
- 挿し穂の選定や挿し木後の管理に留意すれば、春や秋の挿し木時期における発根苗率の大きな違いはないと考えられます。